

鳥取県宮東山水泳場

—管理委託業務に関する事業計画書・収支決算書—



平成 26 年 8 月
ジュニアパンパシフィック大会（ハワイ）
200m平泳ぎ 金メダル 武良竜也選手
100m平泳ぎ 銀メダル



平成 27 年 5 月
インターナショナルユースダイビングミート（ドイツ）
3m板飛込み 金メダル 三上紗也可選手
高飛込み 金メダル

平成 28 年 8 月 9 日

申請者/一般財団法人鳥取県水泳連盟・公益財団法人鳥取県体育協会共同企業体

代表者 一般財団法人鳥取県水泳連盟

会長 川口 武

目次

はじめに.....	1
指定管理者を希望する理由	15
施設管理業務に対する基本方針.....	17
管理指導実績	26
サービスの向上策と利用促進に向けた取組	31
利用者の要望の把握及びその対応方針	50
施設設備の維持管理、衛生管理の考え方	52
外部委託の考え方.....	59
料金設定	60
事故・事件の防止措置と緊急時の対応.....	65
個人情報の保護への対応	93
情報の公開への対応.....	94
スポーツの普及振興の考え方	95
スポーツの普及振興に係る自主事業計画.....	97
組織及び職員の配置等	103
関係法令に係る監督行政機関からの指導等の状況及び対応状況 ..	112
委託、工事請負の発注予定	113

法人等の社会的責任の遂行状況	114
その他	116
鳥取県営東山水泳場	121
むすびに.....	122
収支予算書(平成29年度).....	123
収支予算書(平成30年度).....	124
収支予算書(平成31年度).....	125
収支予算書(平成32年度).....	126
収支予算書(平成33年度).....	127

はじめに

(1) あいさつ

「水泳及び水泳競技の健全な普及・発展を図り、もって鳥取県民皆泳の実を挙げ、県民の心身の健全な発達に寄与すること」を目的に設立した一般財団法人鳥取県水泳連盟と、「スポーツの普及及び健全な発展を図ることにより、県民の体力向上及びスポーツ精神の高揚に寄与すること」を目的に設立された公益財団法人鳥取県体育協会は、永年にわたり関係団体と連携しながら、その責務を果たしてまいりました。



代表者 一般財団法人鳥取県水泳連盟
会長 川口 武

この度の指定管理制度による施設管理につきましては、この2つの団体がそれぞれの経験と人材を結集した共同企業体を組織することで、これまでよりも更に質の高いサービスの提供を目指し、鳥取県営東山水泳場の管理運営を担い、その使命を果たしていきたいと考えております。



東山水泳場エントランス

施設管理にあたっては、施設の設置目的や指定管理者制度の趣旨であるサービスの向上、効率的・効果的な運営等を踏まえながら、鳥取県水泳連盟や鳥取県体育協会がかかえている組織・人的資源や今までの実績経験を十分に生かして県民の期待やニーズに応える管理運営に努める所存であります。そのために、これまでも管理・運営等に関する点検・検証を行ってまいりましたが、さらに充実を図るため、独自にモニタリング制度を導入し、具体的な計画を立て段階的に評価・改善を促しながら制度の適正化を図り、更に質の高い他に誇れる施設管理を行うことにより、鳥取県のスポーツの振興や県民の健康増進に寄与したいと考えております。

また今後は、鳥取県水泳連盟・鳥取県体育協会・東京オリンピック・パラリンピックのゴールドスポンサーのアシックスジャパン株式会社と連携し本県からのオリンピック選手の輩出を目指し、更にスポーツ振興を積極的に図っていきます。

また今後は、鳥取県水泳連盟・鳥取県体育協会・東京オリンピック・パラリンピックのゴールドスポンサーのアシックスジャパン株式会社と連携し本県からのオリンピック選手の輩出を目指し、更にスポーツ振興を積極的に図っていきます。





H26年8月ジュニアパンパシフィック大会（ハワイ）
200m平泳ぎ 金メダル 武良竜也選手
100m平泳ぎ 銀メダル



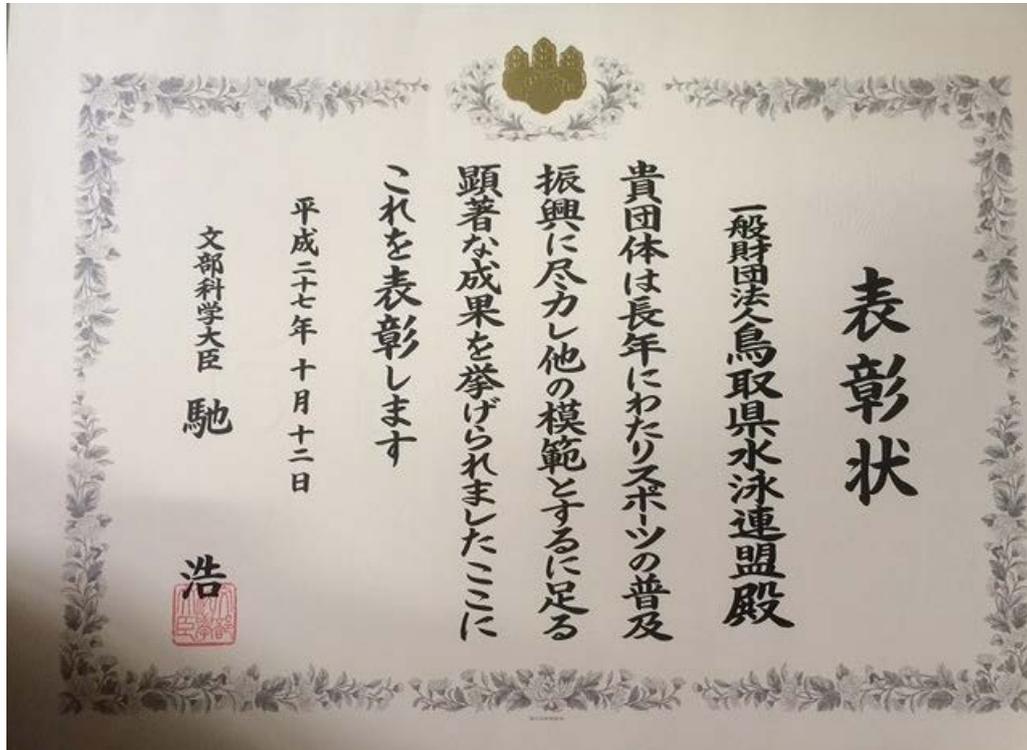
H27年5月インターナショナルユースダイビング
ミート（ドイツ）
3m板飛び込み 金メダル 三上紗也可選手
高飛び込み 金メダル

最後に、今回の選定にあたり、現在、本水泳場の指定管理者として、選定審査の機会を恵与いただきましたことに多大なる謝意を表します。



吉田副館長、松本館長、藤山スタッフ、朝妻スタッフ
前田スタッフ、永野スタッフ、井上スタッフ、別府スタッフ、牧野スタッフ

平成27年度
生涯スポーツ優良団体として
文部科学大臣賞を受賞しました。



東京オリンピックを目指して！ 競泳競技



強化選手の成長

当連盟が指定管理を任せていただいて、急激に成長してます。

平成22年度まで(国体)
過去10年間の少年勢の入賞

1種目
100m背泳ぎ

平成23年度～27年度(国体)
少年勢の入賞

9種目(優勝2種目)
100m平泳ぎ他

平成26年8月 武良竜也選手
ジュニアパンパシ大会(ハワイ)

200m平泳ぎ優勝



本年度行われた中国
五県対抗において他県
の一般・大学生と対等
に戦い55種目中9種
目で優勝！
過去最高の成績！

東京オリンピックを目指して！ 飛込競技



当連盟独自の教室で培った

三上紗也香選手(高校1年)

平成26年

世界ジュニア(ロシア) 高飛込 8位

平成27年

インターナショナルユースダイビングミート
(ドイツ) 3m板・高飛込の2種目 優勝

前田 花奈選手(中学1年)

平成27年

インターナショナルダイビングミート
(カナダ) 3m板飛込 2位

安田 舞選手(中学2年)

平成28年

日本室内選手権飛込競技大会
女子シンクロナイズド3m飛板 優勝



●大会運営ボランティア

年間15試合以上の大会は当連盟のボランティア役員によって運営されています。

●飛込プールボランティア

特殊な器具を使う飛込み競技は当連盟の飛込みの役員・指導者によって支えられています。

●屋外プール清掃ボランティア

屋外プールの清掃を当連盟の役員・一般利用者の方々にボランティアでしていただいております。

●強化合宿運営ボランティア

本プールでの選手強化合宿は当連盟の指導者や当連盟の役員、そしてドクターによる乳酸測定と科学的トレーニングのサポートをしていただいております。

●障がい者ボランティア

当連盟の加盟団体である障がい者水泳協会の活動をサポートするために障がい者ボランティア活動を充実させていきます。

鳥取県の行政の課題と取り組み

みんなで創る10年後の鳥取県に向けて

みんなで創る10年後の鳥取県に向けて

みんなで創ろう 活力 あんしん 鳥取県

～心豊かな充実生活をめざして～

県民、NPO、住民団体、企業、各団体等の知恵と力を結集して、地域・県外・海外と「繋がれるネットワーク」をもちながら様々な活動を行う活力にあふれる鳥取県。
そして、その活力を活かし、人生におけるステージ(段階)において、豊かな自然・環境の中で、心の豊かさを実感しながら充実した生活を安心して送ることができる鳥取県。
＝「活力 あんしん 鳥取県」を、県民とともに創ります。

「活力 あんしん 鳥取県」を実現するための
様々な取組を、「ひらく」「つなげる」「守る」
「楽しむ」「支え合う」「育む」の6つのキー
ワードで分類しました。

食のみやこ鳥取県

北東アジアの窓口

「価値実感生活」の実現

近畿圏域とつながる

住民主体の地域づくり

新しい産業の創出

共生し支え合う都市地域と中山間地域

個々の地域活動がつながり合ってより
大きな力を生み出す地域づくりを
当連盟は応援していきます

「鳥取県民スポーツ・レクリエーション祭」や
総合型地域スポーツクラブの創設、マラソン・
ウォーキングなどスポーツイベントへの参加を
促し、健康を維持できる人の増加を目指します。

ジュニア期から成人期まで継続的な競技力向上
を目指し、オリンピックやパラリンピック、国
体、全国障害者スポーツ大会などの国際大会や
全国大会で活躍できる選手を輩出します。

幼児から大人そしてトップアスリートまで 笑顔いっぱいの東山水泳場



(2) 財団法人としての経営方針と管理者制度への対応

公益法人改革や管理者制度等の経営環境の変化に即応して、組織改革や経営改革に取り組むとともに、管理者としての資質と能力向上に努めています。

ア) 一般財団法人としての経営基盤の強化

私たち連盟は公益法人改革に対応して一般財団認定・公益財団認定を取得し、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

移行後には、そのメリットである公益性を最大限に活かしながら、本水泳場の有効活用やスポーツを通じた地域貢献活動に邁進してまいりました。



中学校水泳部の奉仕活動



職員による草刈り風景

イ) 指定管理者制度への真摯な取り組み

NPM（新公共経営＝民間の企業経営手法を応用した行政部門の運営方法）やPPP（公民協働による公共サービスの提供）に基づく管理者制度についての最新動向を注視するとともに、持続可能性の高いサービス提供のあり方を探求します。

① 公益性重視の管理と効率性重視の運営の実現

管理者制度を「公か民か」といった二律背反的に捉えるのではなく、公共的団体と民間企業がそれぞれ持つ特性を最大限に活かしながら、公の施設を管理運営することが、県民の皆さんや地域社会にとって最善の方策であると考えます。

公益性の保持を重視しながら専門性・効率性・創造性に秀でた地域団体や先端企業の協力を仰ぎながら、サービスの向上と経費の節減を追求した運営を行います。



教室風景

② 納税者目線を意識した透明性の高い運営

厳しい財政状況の下、税金の使途について一層厳しい視線が注がれていることから、アカウンタビリティ（説明責任）が果たせるよう、自己評価や第三者評価を積極的に導入して、その結果を公表するなど、透明性を一層高めたオープン型運営に努めます。

③ 公共サービスを担う者としての資質の厳守

公共サービスに関する国民の権利を守る『公共サービス基本法』の理念に則り、変わりゆく社会経済情勢や多様化する県民ニーズを的確に応えて、安全・安心・快適なお客様本位の施設運営を実行政代行者として関連法令等を遵守し、子ども、高齢者、外国人、障がい者など誰もがいつでも、公正・公平に施設を利用できるようにコンプライアンスを厳守します。



笑顔の対応



すぐにかかけます



泳げるをサポート

ウ) 指定管理者としての資質と心得を堅持

施設の管理運営を担う全ての職員や関係者が「指定管理者は、行政機関の適正な代理執行機関である」との認識のもと、鳥取県の政策目標や施策の実現を自らの使命として認識します。

「鳥取県営社会体育施設の設置及び管理に関する条例」に規定された業務を誠実、かつ適正に執行します。

利用の禁止又は制限に関する業務	使用の許可に関する業務
供用期間の変更及び供用時間の変更に関する業務	入場の制限等に関する業務
監督処分に関する業務	効用の増進を図るための事業
維持管理に関する業務	管理上必要と認められる業務

スタッフ全員が行政庁の一員としての気概を持って、本県の行政課題を熟知するとともに、関連行政計画や行政施策の円滑な推進に向けた盤石な協働体制を構築します。

(3) 本水泳場管理者としての成果と展望

私たちは、鳥取県民のニーズに応え、スポーツ振興の拠点として整備された本水泳場の合理的かつ効率的な運営を行う重責を果たすべく、施設の設置目的の実現に向けて全職員が一丸となって精励しています。

平成29年度からの施設運営にあたっては、安全性・快適性に配慮した施設づくりと人件費削減を柱とした効率運営による経費縮減の両立を達成すべく、民間事業者との強固な協働体制を構築し事業展開に取り組んでいきます。



職員による排水溝の点検

ア) 現行の事業計画書の進捗状況

平成24年度からの米子市指定管理でお約束した「樹木等の景観美化の徹底」や「コースロープの設置」などの新しいサービスは、平成28年6月現在で着実に実行(19項目中19項目;達成率100%)しています。



樹木の景観美化

イ) 鳥取県行政評価における良好な結果

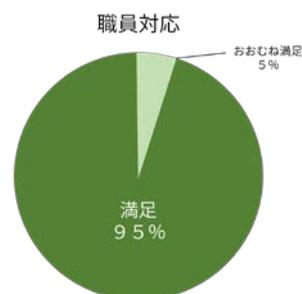
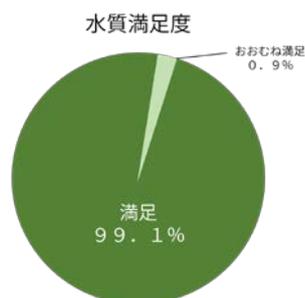
鳥取県が実施する行政評価において、適正な評価が得られるように鋭意努力します。

ウ) 利用者から頂いたお声を着実に反映

私たちの管理運営を通じて、安全対策の徹底により利用者無事故を貫くとともに、公正・公平な利用環境を堅持しており、その種のクレームも頂いたことはありません。

利用者アンケートの結果からも、水質の管理で満足以上が約100%、職員の対応で満足以上が95%、施設全般の管理についても98%が概ね適切であると評価を得ておりますが更なる利用者満足度の向上に全力を挙げる所存であります。

アンケートやご意見箱に頂いた貴重なご意見・ご要望に対して着実に対応するなど利用者第一主義の施設運営を貫きます。





笑って～



イエ～イ

安心してください！
見てます！

□ご意見・ご要望の事例

水がとってもきれいになりました。	駐車場から花壇の花を見るのが楽しいです
職員の対応が数段良くなりました。	受付の女性の対応が気持ちいいです。
玄関と更衣室がとても清潔になりました。	監視員の方からの声掛けがうれしいです。

エ) 指定管理者制度での運営成果と地域還元

私たちは、指定管理者制度のメリットを最大限に活かして、効率的な運営や利便性向上等による利用者増加を果たすとともに、金銭的な地域還元を進めていきます。

①利用者の増大と経費縮減の達成

次期の管理目標として、「利用者の増大と経費削減」を掲げ、水泳教室等の充実やイベントの実施など、利便性を向上させる事業の展開と契約事務の見直し等により、利用者の増大と経費の節減に努めます。

本水泳場の合計利用者数は、当連盟の教室利用者が全体の75%であり全体の大多数を占めており当連盟が管理運営することで利用者を拡充させます。

② 経営努力による余剰金等をスポーツ振興に充当

鳥取県の「管理代行者」として本水泳場の管理運営を行うにあたり、県民が納めた税金を最大限有効活用し、県民が納得する利用者サービスとして還元することが使命の一つであると捉えております。このことから、剰余金が出た場合は、スポーツ振興や子ども達のスポーツ活動に対して積極的に還元いたします。

(4) 鳥取県の特性を活かした施設運営に向けて

私たちは、鳥取県の歴史や特性、県民の皆様のニーズ等を十分に把握し、本水泳場の管理運営を通じた鳥取県の発展と魅力度アップに貢献することが大きな使命と考えています。



ア) 鳥取県西部の風土・施設等を活かす

鳥取県西部は、山陰のほぼ中央に位置し、東には「伯耆富士」とも呼ばれる国立公園大山、北に日本海、そして西には汽水湖として日本で5番目の大きさを誇り、ラムサール条約にも登録されている中海という、豊かな自然に囲まれています。

遠く弥生時代から大陸との交流があったとされ、現在では高速道路や鉄道が整備されている便利なアクセス環境から、山陰の玄関口と呼ばれる交流のまちです。



伯耆富士 大山

こうした豊かな自然や恵まれたスポーツ施設を活かした運動習慣が県民一人ひとりに普及・浸透するように、本水泳場を中核とした地域特性を踏まえたスポーツ振興事業を展開してまいります。

イ) 鳥取県民の特性を把握

本水泳場において的確な利用者サービス向上を進めるために、鳥取県民の特性を熟知し、そのニーズに即した施設運営を進めます。

① 鳥取県のスポーツ特性への対応

平成26年度の「県民の運動・スポーツに関する意識・実態調査報告書」によれば、日ごろ運動不足を感じている県民は、75.6%となっています。

今後は、健康づくりやリフレッシュに資するような気軽に継続的に実施できるスポーツ環境を提供することが求められています。

② 鳥取県民の健康やライフスタイルに対応

前述の報告書で、「普段から健康を意識して運動やスポーツをするよう心がけている」が、44.6%、いないが55.4%と5割近くの県民が健康づくりを実践しています。

ライフステージ別死亡状況は、「脳血管疾患」の全国平均は人口10万人当たり男65.9人、女37.6人であり、鳥取県平均では人口10万人当たり男61.9人、女36.1人となっています。また「悪性新生物」の全国平均は人口10万人当たり男203.1人、女96.8人であり、鳥取県平均では人口10万人当たり男214.0人、女97.3人と増加しています。

こうした鳥取県民の健康状況やライフスタイルを勘案した事業等を本水泳場において展開します。

ウ) 鳥取県民ニーズへの的確に対応

平成 26 年度の「県民の運動・スポーツに関する意識・実態調査報告書」によれば、公共スポーツ施設への希望について、「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」と挙げた者の割合が 30.1%と最も多く、以下「身近で利用できるよう、施設数の増加」(26.8%)、「利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化」(20.4%)、「利用時間帯の拡大(早朝、夜間など)」(19.5%)などと続いています。

県民ニーズに対応して、イベント・教室事業や付帯設備の充実、スポーツ情報の提供、ボランティア環境の整備などに取り組んでまいります。

エ) 鳥取県民らしい施設運営を目指して

私たちは、鳥取県の風土や県民特性・ライフスタイル・ニーズなどを総合的に勘案することで、鳥取ならではの事業計画書を策定します。本水泳場の運営にあたり、同じ鳥取県民として県民の皆様の意向や『鳥取県スポーツ振興計画』等を最大限尊重し、「鳥取県民の鳥取県民による鳥取県民のための鳥取県らしい施設運営」を目指します。



水泳大会の観覧席の様子



県と市の体育施設交換セレモニーの様子

指定管理者を希望する理由

鳥取県営東山水泳場の指定管理者募集にあたり、一般財団法人鳥取県水泳連盟（以下：県水連という。）と、公益財団法人鳥取県体育協会（以下：県体協という。）は、共同企業体として協定を結び、一般財団法人鳥取県水泳連盟・公益財団法人鳥取県体育協会共同企業体（以下：共同企業体という。）として申請します。

これまで、鳥取県の水泳界を牽引してきた県水連と、培ってきた県体協の実績が、それぞれのノウハウを結集した共同企業体を組織することにより、鳥取県営東山水泳場の設置自的を強力に推進していけると自負しております。

以上のことから、基本原則である公共性・公平性の理念を追及し、すべての利用者がスポーツを気軽に親しめる施設として、常に地域や利用者のニーズを反映した施設管理運営を行い、鳥取県のスポーツ振興、県民の健康増進に寄与するため管理・運営をさせていただきたく申請いたします。

平成12年	鳥取県体育協会は、鳥取県営屋内プールを受託
平成18年	鳥取県より鳥取県体育協会は、指定管理者導入第一期から受託
平成23年	米子市より鳥取県水連は米子市営東山水泳場の業務委託管理を受託
平成24年	米子市より鳥取県水連は米子市営東山水泳場の指定管理を受託
平成27年11月	鳥取県より鳥取県水連は鳥取県営東山水泳場の指定管理を受託
平成27年11月	米子市より鳥取県体協は米子皆生市民プールの指定管理を受託

(1) 本水泳場の設置目的と当連盟の使命と事業が合致していること

本水泳場の設置目的である「スポーツを振興し、もって県民の心身の健全な発達に寄与するため」と当連盟の目的である「水泳競技を振興し、もって心身とも健康で明るい県民生活の形成に寄与すること」は、同質と解釈します。

本事業を円滑に遂行するために、専門スキルのあるベテラン職員を配置して本水泳場の有効活用に取り組んでいきます。

鳥取県民 57 万人の皆様のスポーツの振興と健康・いきがづくりを効果的に進めるために、鳥取県のスポーツ振興拠点である「鳥取県営東山水泳場」の指定管理者に応募します。



マスターズのメンバー



水泳場職員

(2) 公平性・専門性・信頼性の高い施設運営が保証できること

指定管理者制度の普及に伴う民間セクターの撤退事例が増える状況で、5年の指定期間で持続可能な管理者を選定されることは、施設の有効活用や県民のスポーツ振興の観点からも絶対条件であると考えます。

私たちは、これまでの運営実績に基づき、安全管理、公平な利用環境の維持、地域やスポーツ団体との協働を目指して、今後5年間の運営管理を確実に担保します。

鳥取県の関係部署と密接な関係を持ち日頃から協議調整を十分に行い、指定管理者としての指名期間に止まることなく、将来も見据えた維持管理のあり方を念頭に置いた持続性の高い運営管理に取り組みます。

ア) 多彩な自主事業展開と利用者視点のサービスが提供できること

スポーツ振興事業として毎年、多彩な水泳教室やイベント・水泳大会など幅広い自主事業を開催し、延約7.5万名（平成26年度）の県民にスポーツの楽しさや健康づくりの推進など豊富な教室及びイベント提供ノウハウを蓄積しています。

本水泳場設置目的のスポーツの振興を目指し、ライフスタイルの変化やスポーツ・健康ニーズの多様化に対応し、利用者目線によるリーズナブルで納得感を得られる魅力的な事業展開を進めます。



教室風景

イ) 競技者や団体とのネットワークで円滑な大会運営協力ができること

鳥取県のスポーツ振興拠点として、「鳥取県スポーツレクリエーション祭」を開催するなど豊富な大会・イベント開催実績を有しています。

鳥取県内の水泳統括団体である当連盟のネットワーク網を活かし、アスリートが競技に集中できるようなきめ細かな支援体制を構築し、鳥取県全体の競技力の向上等に寄与します。

日本体育協会や日本水泳連盟等との強力なパイプを活かして、傘下の全県・全国的な競技団体等への働きかけによって大規模大会等の誘致を図ります。



スタートを待つ選手達

ウ) 関係団体や企業との共創・協働体制による開かれた運営ができること

私たちは、競技大会・イベント開催時において、地域の一員として関係団体等と連携を持ちながら進めるとともに、地元教育機関や企業等との連携事業など地域密着型運営を推進します。

施設管理業務に対する基本方針

鳥取県の貴重な資産である本水泳場の施設価値を高め、そして県民が広く利用する公の施設としての性格を十分認識し、利用者にとって快適な施設の環境づくりやスポーツ振興、県民の健康増進及び東山水泳場の利用の促進を目指して、子ども・高齢者・身体的に障がいのある方をはじめすべての県民の皆様に「安心」「安全」「信頼」を提供し安心して利用していただくため、管理運営についての基本方針や抱負をまとめると以下のようになります。

(1) 管理運営の基本方針策定にあたって

私たちは、管理者としての役割を十分理解するとともに、鳥取県を取り巻く現況やスポーツ等関連行政施策の動向を踏まえ、本水泳場における管理の課題を明確にしたうえで、管理業務を効果的かつ効率的に行うための基本方針を策定します。



照明器具の交換

ア) 私たちに課せられた使命の実現に向けて

行政施策の代行を担う管理者として、鳥取県や国の行政施策の円滑な執行に資するために、課せられた使命と責務を果たせるような事業計画を策定します。

① 国のスポーツ施策等の転換期を見据えて

国民のスポーツ意識の高まりを背景に、平成22年の「スポーツ立国戦略」の策定や新たな『スポーツ基本法』の施行などスポーツ行政の一大転換期を迎えて、スポーツ施設のあり方も大きく変化しています。



障がい者水泳

指定管理期間においては、新たなスポーツ施策の動向や将来展望に対する的確かつ柔軟な対応策を講じるための中長期的な事業計画を策定します。

・ 県民のスポーツ権への対応

・ 地域スポーツクラブ等の育成支援策の強化

・ 障がい者等も一体となったスポーツ振興

・ プロスポーツを巻き込んだ多角的なスポーツ活動

② 鳥取県の行政施策動向を踏まえて

指定管理者としての責務として鳥取県の行政政策について熟知するとともに、その計画等の円滑な推進に向けて全力を挙げて連携・協力を努めます。

◎関連法令等に即した適正な施設運営

『地方自治法』『公共サービス基本法』や『体育施設条例』等の当水泳場の管理運営上で準拠しなければならない関連法令を遵守します。



遵守します

□遵守しなければならない法令等

労働基準法	労働安全衛生法	最低賃金法
労働組合法	男女雇用機会均等法	労働災害補償保険法
雇用保険法	健康保険法	厚生年金保険法
電気事業法	消防法	浄化槽法
大気汚染防止法	水質汚濁防止法	鳥取県産業振興条例
鳥取県公有財産事務取扱規則	鳥取県個人情報保護条例	鳥取県情報公開条例
鳥取県行政手続条例	鳥取県営社会体育施設の設置及び管理に関する条例	

更に、現段階で検討されている条例等にも施行後に速やかに対応すべく鳥取県政情報等を常に注視します。

イ) 的確な現状認識と指定管理期間を見据えた社会変化への対応

公共スポーツ施設の持続可能な管理運営を行うためには、施設を取り巻く環境を正確に認識するとともに、以下のような社会環境の変化を迅速に把握する分析力と適切な対応を講じます。

① 施設運営を取り巻く現状やリスクにマクロ的に対応

急激な社会現象の変化を冷静に分析し、指定期間の対応を想定します。

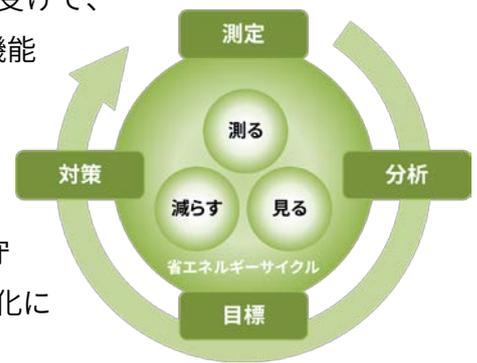
◎世界経済の不安定化と物価高騰による利用面・コスト面のリスク対応

世界経済の不安定化と資源高（原油高騰等）による物価高騰が施設利用の減退や運営コストアップに影響を及ぼすことに十分に留意して管理運営を行います。



◎安全意識の高まりや防災対策への高い欲求

東日本大震災や熊本地震による国民の安全意識の高まりを受けて、安全や危機管理対策の抜本的な見直しを図るとともに、防災機能の強化など安全安心な施設環境作りに取り組みます。



◎ストップ地球温暖化！と節電への取り組み

地球温暖化防止に向けて『地球温暖化対策実行計画』を遵守するとともに、「節電対策基本方針」に基づき電力需給の逼迫化に対応した効果的な省エネ対策を進めます。

② 平成33年を想定した社会環境変化への適応

今後の社会環境変化を想定した先見性の高い計画立案と執行を実施します。

私たちは絶えず国や鳥取県の政策についても情報収集に努め、適宜適切な事業展開を行い、本県のスポーツ振興を推進してまいります。

◎人口構造の変化とライフスタイルの変化

鳥取県の人口は、平成28年5月1日現在570,707人、世帯数は、216,181世帯です。

平成32年には高齢者人口は約14万人へと増加し、高齢化率は26%に伸びると見込まれ、平成32年には4人に1人が高齢者の時代が到来します。

このため、『高齢者保健計画』では、介護予防や健康増進事業を積極的に展開するなど、高齢者が生きがいを持って自己実現を図ることができる環境づくりを推進していきます。



みんなの笑顔

◎県民ニーズの多様化と健康・スポーツ意識の向上

県民の皆様のライフスタイルも多様化してくるものと思われませんが、予想されるスポーツへの関心や健康志向の高まりに応えられるよう、個々人の体力に応じたスポーツメニューの提案など、きめ細かい工夫を行います。

社会的な健康・スポーツ動向や県民アンケート調査等による県民のニーズの把握に努め、新たな成人プログラム、気軽に参加できるスポーツイベントなど多様な健康・スポーツ事業を実施します。



成人の水泳指導

◎サービスの向上期待と財政再建機運の高まり

管理者制度の導入目的である公共性を担保し、利用者サービスの向上と経費の縮減を両立させるべく、利用者第一の理念の基に、『都市経営ビジョン・アクションプラン』を参照しながら、ハード・ソフト両面からの運営改善策を実現します。

③ 施設に関する管理運営上の主な課題と対応策

◎耐震性や経年劣化に対応した施設・設備の安全対策

本水泳場は、昭和58年に完成し平成24年にリニューアルされた施設ですが、地震等大規模災害への備えを一段と強化することが肝要です。日常、定期点検を怠らず、鳥取県の大切な財産である建物や設備の長寿命化を図り、ライフサイクルコストを縮減します。

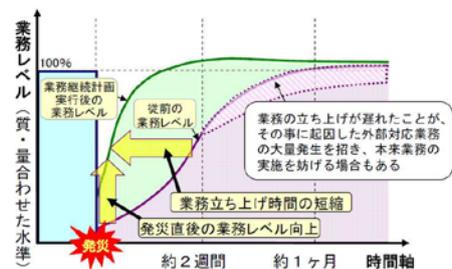
◎大規模災害発生時の避難所等としての機能維持

『地域防災計画』によれば、本水泳場は避難所等には指定されていませんが、危機発生直後においても、これらの施設を利用できるよう業務を継続する必要があります。

地震、台風など大規模災害や緊急処理事態など、本県に甚大な被害と県民生活に深刻な影響を与える危機事象が発生した際には、避難場所としての機能維持に努めます。

本水泳場の消防計画や防災計画に加え、業務継続計画（BCP）を策定するとともに、必要な訓練や研修を実施し、業務継続を確保します。

業務継続計画導入後のイメージ



(2) 管理運営に対する基本方針

私たちが考える課題の着実な解決と鳥取県民の貴重なスポーツ資源としての施設価値向上を目指し、経営理念の策定とその具現化のための管理運営方針を以下のように掲げます。

ア) 本水泳場の経営理念(ビジョン)

国の『スポーツ立国戦略』の成果指標であるスポーツ実施率 65%以上の実現を目指して、すべての県民が「いつでも・どこでも・だれでも、する・観る・支える」スポーツに親しみきっかけづくりを推進します。

計画のキャッチフレーズと連動して「夢・感動・笑顔があふれるスポーツ施設」という経営理念（ビジョン）を掲げて運営管理にあたります。



ビジョン～夢・感動・笑顔があふれるスポーツ施設 東山水泳場

イ) 本水泳場の管理運営方針

スポーツ基本法に伴うスポーツ権の尊重、県民のエコや安全意識の高まり等によりスポーツに関する県民皆様の関心と需要に応えるため、鳥取県営社会体育施設の設置及び管理に関する条例に基づく東山水泳場の施設設備の維持管理に関する業務（施設設備の保守管理、修繕、清掃、保安警備等）を遂行し、本水泳場を次の5つの基本方針のもとで管理運営し、魅力ある新たなステージ展開を目指します。



職員の電話対応

①安全・安心で快適な施設空間の創出

☆安全・危機管理体制の強化

防災・防犯体制の強化、危機管理体制

の強化、実地訓練の強化、監視体制の充実

☆コンプライアンス体制の強化

公益通報制度・職員管理の適正運用、委託先の監理徹底、研修の強化

☆ユニバーサルデザインの強化

ノーマライゼーション、情報弱者への配慮、人権・男女共同参画の徹底



監視体制



屋内プール監視



屋外プール監視

②利用者視点の高品位なサービス提供

- ☆利用者サービスの質的・量的な拡充自主事業の拡充、付帯サービス拡大、子育て支援、機器のリニューアル
- ☆情報発信機能の強化による利用促進策
 - 広報広聴機能の充実、メディア活用、満足度調査・市場調査の強化
- ☆ホスピタリティ溢れるマンパワーの育成
 - ワンストップサービス、マニュアル・マナー研修の充実、弱者サポート対策



笑顔で対応

③鳥取県の地域資源を活用した施設運営

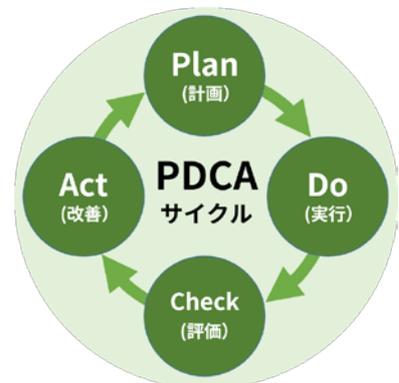
- ☆地域や関係団体との連携強化
 - 競技団体・教育機関・スポーツクラブ等との連携、観る・支えるスポーツの推進
- ☆イベント等の参画による地域との絆の拡充
 - 商店街等とのタイアップ、イベント・まつり参画、共同PR
- ☆積極的な地域貢献活動の展開
 - 清掃・防犯活動、地域活性化事業、他公共施設との連携、地域の小中学校との連携



地域との絆

④効率的・効果的なマネジメントの推進

- ☆人財の資質向上と認証等の取得
 - キャリアアップ研修、資格取得促進、適材適所の配置
- ☆OODAサイクルによるムダ・ムラ・ムリのないマネジメント業務改善提案の活用、苦情への即応体制、コスト管理の徹底、権限委譲
- ☆モニタリング機能の強化
 - 事業進捗管理体制の強化、行政評価への真摯な対応、第三者評価の実施



⑤エコ型スポーツ施設管理の推進

☆ライフサイクルコストの削減

ファシリティマネジメントに基づくきめ細かいメンテナンス、
計画的な修繕

☆実効性の高い温室効果ガス削減策

地球温暖化対策、カーボンオフセット制度、省エネ製品・エコ調達

☆利用者等へのエコライフの普及啓発

ごみ持ち帰り、節電・節水の徹底、ノーカーの啓発、もったいない運動



ウ) 鳥取県の施策と連携した管理運営

☆鳥取県スポーツ振興計画等、鳥取県の施策について積極的に協力します。

☆鳥取県が開催する大会、行事等については、他の利用者と調整を図りながら円滑な開催を行います。

☆災害が発生した場合には、鳥取県や米子市と連携体制をとり適切に対応を行います。

(3) 経費節減のための方策

建物・施設の管理面から経費削減の工夫をします。

ア) マルチスタッフ育成により経費圧縮

スタッフ全員がすべての業務が行えるようすることで、業務範囲を独立させすぎず、余剰な作業及び人員の発生を抑制します。



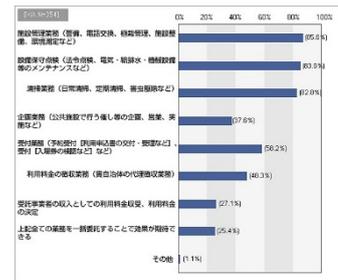
マルチスタッフ

イ) 総合管理(トータルマネジメント)等の視点でのコスト削減について

現在の施設をより長く効果的・継続的に維持していくことを管理運営の基本とし、更に一歩進んだ総合的な管理を行うことによって、施設の資産価値の延命とコスト削減の効果を図ります。

① 各種数値をデータベース化し、経費削減に役立てます

現在得られる各種数値をデータベース化し、記録・分析することは基本業務ですが、このデータベースに専門化による簡易劣化診断の結果によって、将来発生しうる施設の諸問題を予測し、適切な対策を講じます。“目に見えないコストの削減”を図ります。



② 継続的改善活動によるコスト削減

日常点検・定期点検を実施して、設備における異常・故障を未然に防ぎ、計画的・効率的な維持管理手法を確立します。また、現在の施設の管理サイクルをトータルマネジメント（総合、管理、活用）として見直し、継続的改善活動を繰り返し“ムリ”“ムラ”“ムダ”を省き、コストの削減を図ります。



ウ) 省エネルギー推進によるコスト削減について

全てのスタッフに対し、「省エネルギー推進教育」を実施します。このことにより管理コストの削減を図るとともに、環境にやさしい運営を目指します。

また政府から打ち出された「節電実行基本方針」による「使用最大電力を▲15%以上抑制」に準拠し、県民の皆様のご理解を得ながら、次のように実行していきます。

① 室温調整

夏28度以上、冬は20度以下に設定することで、冷やし過ぎ・暖め過ぎに注意します。設定温度を1度変えるだけで、冷房時には約10%、暖房時には約13%の空調エネルギーを節約できます。

② ファンコイルの手入れ

ファンコイルのフィルターは、こまめに清掃をします。汚れたフィルターは、最大約10%も電力を無駄にします。

③ ブラインドの利用による冷暖房効率のアップ

冷房時や昼間はブラインドを下ろして日差しを防ぎ、夜間はブラインドを上げて室内の熱を逃がすようにします。暖房時や夜間は、ブラインドを下ろして熱の放出を防ぐようにします。



ブラインドの利用

④ こまめな消灯の実施

照明で消費されるエネルギーは、一般的なビルでは全体消費量の25%に当たります。施設の利用状況を確認し、こまめに消灯し、点灯管理を行う習慣をつけるようにします。

⑤ 省エネタイプの照明設備の使用

省エネ型ランプなら、電力使用量が同じ明るさの白熱球の約1/5となります。照明交換時は省エネ型を導入するようにします。

	当社60W形 白熱電球搭載ダウンライト	LEDダウンライト※1 (60W相当品)
年間CO ₂ 排出量	63.2kg	約90%削減 6.4kg
消費電力/台	54w	約90%削減 5.5w
年間電力量	182kWh	約90%削減 16.5kWh
ランプ寿命	1,000時間	約40倍 40,000時間
イニシャルコスト/台	4,500円	25,800円
年間ランニングコスト	4,044円※2	363円※3
イニシャル/ランニングコスト (10年間使用した場合)	44,940円※2	29,430円※3

※1 消費電力5.5W(消費電流0.025A)相当品/電圧対称220V/1MHz/CO₂排出係数0.39/CO₂1t/Wh
※2 10年間ランニングコスト(ランニングコスト)において、※3 LEDダウンライトは、ランプ交換費用は含んでいません。

⑥ 待機電力の削減

OA機器は、使用后スイッチを切る、またはプラグをコンセントから抜いて待機電力を減らします。

⑦ ゴミの排出量を削減

施設から発生するゴミの分別を徹底し、廃棄物のリサイクル品目を増やし、捨てるゴミの排出量を抑制します。同時に廃棄物処理コストを低減します。

また、日頃から3R運動（リサイクル/リユース/リデュース）を推進します。



⑧ その他の提案

維持管理費について、「清掃業務」「消防用設備保守点検」「浄化槽保守点検」

「循環ろ過機保守点検」については、仕様書の見直しから契約締結に至るまで、鳥取県体育協会から指導を受け経費の節減に努めます。

維持管理費のうち、「競泳用自動審判装置点検」については、導入当初から当連盟が使用しており、定期点検業務をこれまで以上に行うことで経費削減していきます。

皆生市民プールと連携し、薬剤を始めとした共同購入により経費の節減を行います。

管理指導実績

(1) 一般財団法人鳥取県水泳連盟

No	施設名	備考
1	鳥取県営東山水泳場 管理実績 平成 23 年 5 月 1 日から平成 28 年 7 月現在に至る 指導実績 昭和 58 年から平成 28 年 7 月現在に至る	
2	鳥取屋内プール 指導実績 昭和 55 年から平成 28 年 7 月現在に至る	
3	米子皆生市民プール 指導実績 昭和 58 年から平成 28 年 7 月現在に至る	
4	フィットネスクラブパジャ鳥取 指導実績 平成 17 年 5 月から平成 28 年 7 月現在に至る (ジュニア部門のみ)	

(2)公益財団法人 鳥取県体育協会

No	施設名	備考
1	米子皆生市民プール 管理実績 平成12年から平成28年7月現在に至る	
2	鳥取産業体育館 鳥取屋内プール 管理実績 平成11年から平成28年7月現在に至る	
3	コカ・コーラウエストスポーツパーク (布施総合運動公園) 管理実績 平成7年から平成28年7月現在に至る	
4	倉吉体育文化会館 管理実績 平成11年から平成28年7月現在に至る	
5	県立武道館 管理実績 平成12年から平成28年7月現在に至る	
6	米子産業体育館 管理実績 平成21年から平成28年7月現在に至る	